

ほんわ館だより

令和8年11月発行
第170号

中山町立図書館
開　館 10:00～19:00
休館日 11/2.9.16～20
11/24.11/30

11月の展示コーナー

★おすすめコーナー
『財テク』

★2階掲示板
『やってみよう！』

★児童書コーナー
・絵本コーナー 『みのりの秋』『よるの世界へようこそ』
・円形コーナー 『数と科学』
・空中図書コーナー『みつけちゃお！』
・小学生おすすめコーナー 『本当にあったお話』

今月のおはなし会

11月21日(土)11:00～11:30
多目的室で行います
お楽しみに!!

蔵書点検における休館のお知らせ

11月16日(月)～11月20日(金)蔵書点検のため休館になります

休館中の本の返却は【返却ポスト】をご利用ください。ただし、下記の資料は開館時にカウンターへ返却をお願いいたします。

★DVD　★紙芝居　★大型絵本　★他の図書館から借りている本

ご迷惑・ご不便をおかけいたしますがご理解とご協力をお願いいたします



新着 最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にもたくさん入っています

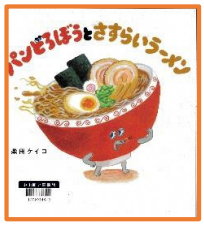
【児童書(えほん)】



◀『おつきさまぽちゃん』
いまい ようこ // 作
ひさかたチャイルド



◀『いろんないろみつけたよ』
田中 千絵 //
文 構成
福音館書店



◀『パンどろぼうとさすらいラーメン』
柴田 ケイコ // 作
KADOKAWA

【文芸書】書名	編著者名	【児童書】書名	編著者名
その犬をください	逢坂 冬馬 // 著	はたらく細胞 病気を学べる図鑑	清水 茜 // 原作
春までのセンセイ	早見 和真 // 著	ほねほねザウルスキャラクター大百科	ぐるーぷ・ｱﾝﾓﾅｲﾂ // 編著
大人のあっぷあっぷでーと	益田 ミリ // 著	とびだせ!科学だモン	キムサンウク // 原案
あの日のチョコレート	江國 香織 // 著	うまくなるテニス	松野 千歌 // まんが
シルバー川柳　16	全国有料老人ﾎｰﾑ協会	宇宙人のいる教室	長谷川 まりる // 作
志記 2	高田 郁 // 著	**【教養書】書名**	**編著者名**
帳の向こう	國分 功一郎 // 著	にっぽんクルマ旅東北	昭文社 // 出版
死と金	堂場 瞬一 // 著	核融合発電で世界はこう変わる	高嶋 哲夫 // 著
朝焼けキッチンカー	秋川 滝美 // 著	ブラッサム	桜井 剛 // 作
フィクサー	真山 仁 // 著	証券マンひりひり日記	日野山 大 // 著
未だ本能寺にあり	今村 翔吾 // 著	ジャパン・アズ・オンリーワン	佐宗 邦威 // 著
オルロージュ	小川　哲 // 著	わらで作る日用品と縁起物	髙橋 伸一 // 著
探偵小石は戻らない	森 バジル // 著	ハカセの知好楽標本箱	福岡 伸一 // 著
金曜日のビストロジュン	山口 恵以子 // 著	認知症の祖母が忘れなかったこと	なかざわとも // 著

本の歳時記

ー大河の英雄たち ー

毎年この時期になると大河ドラマの話題が出てきます。来年は小栗忠順、再来年はジョン万次郎が描かれるようですが、この二人は奇しくも同じ1827年（文政10年）生まれ。同じ幕末を生きながら、一方は幕府の内側から、もう一方は海の向こうで得た経験から ともに日本の未来に深く関わることになります。ドラマではどのように描かれるか興味深いものです。

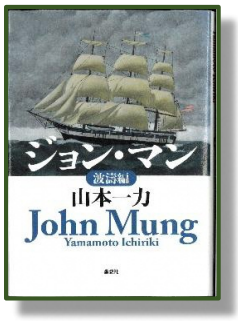
大河ドラマは歴史上の人物を身近に感じるきっかけのひとつですが、さらに小説や評伝を読むことで人物の内面や時代背景に触れることもできます。今月は、本を通して歴史の転換点に生きた人々の思いや決断に触れてみませんか。



『残光そこにありて』

『残光そこにありて』　（佐藤 雫／著　中央公論新社　）

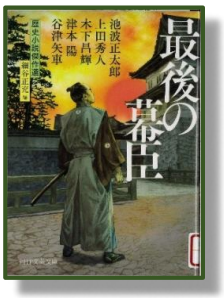
物語は、旗本小栗家の嫡男として育った忠順が、将軍直属の親衛隊「御書院番」に出仕する場面から始まります。やがて卓越した事務能力と先見性を買われ、勘定奉行などの要職を歴任しながら、通商条約や関税制度、造船・製鉄など日本の近代化に関わる政策を推し進めていくのです。しかし政局は倒幕へと傾き、新政府から「逆賊」とみなされていきます。幕末動乱期　国の存亡に際し誰もが保身を考える中、忠順は百年先の人々のことを想い、そして・・・・。「残光」とは何か、謎多き幕臣の生涯に迫る。



『ジョン・マン』

『ジョン・マン』　（山本 一力／著　講談社）

14歳の貧しい少年は、鎖国日本から漂流し、漂流先の無人島で米国捕鯨船に救助される。野蛮だ、ジャップだと外国人乗組員に罵られても持ち前の誠実さで次第に溝を埋めてゆく。やがてアメリカで生活し、世界の大洋を巡った最初の日本人となる。自力で帰国を果たした2年後、ペリー艦隊がやってきて…。幕末日本を救った中浜万次郎ことジョン・マンの生涯を描く。まずは1巻、波濤編から。



『最後の幕臣』

『最後の幕臣　歴史小説傑作選』　（細谷 正光／編　PHP研究所）

名門旗本の当主にして才気煥発、幕府に欠くことのできない逸材として奔走した小栗忠順の生涯と、報われぬその最期を活写する「明治元年の逆賊」（池波正太郎／著）
日露和親条約交渉時のロシア全権プチャーチンが、好敵手と認めた外交官・川路聖謨との交流と密やかな“約束”を回顧する「異国のゴガタキよ」（谷津矢車／著）　そして勝海舟を上田秀人が描く「不実（みのらず）」。日清戦争に勝利し氷川邸で隠居生活をおくる海舟のもとに、徳富蘇峰が訪ねてくる。海舟は薩長同盟や江戸無血開城後の幕軍の動きや竜馬暗殺の意外な真相を話す・・・。他、有能な幕末の幕臣5人を取り上げた短編集。

ほんわ館で読まれています

『８０代になるとたいていボケるか死ぬ。７０代は神様から与えられた特別な時間』

（林 真理子／著　幻冬舎）



70代は頭も体もまだ大丈夫だけど、できないことは諦め、楽しいことを大事にしよう！
72歳の作家・林真理子が、健康、おしゃれ、仕事、お金、人間関係、趣味を本音で語る。

『こつこつ、オムレツ』

（太田 忠司／著　ポプラ社）



前途洋々だった若手パティシエの陶子は、カリスマシェフに叱責されお菓子作りができなくなる。そんな陶子に知人が「思い出のオムレツ」について聞き取る取材に付き合わないかと声をかけてきて…。

『大人のあっぷあっぷでーと』

（益田 ミリ／著　ポプラ社）



洋服を作る、カーリング…。著者が体験した身近なモノゴト34個への挑戦を綴る、な～んか新しいこと始めたいなと思っている人…

『スナックふたり』

（川上 弘美／著　中央公論新社）



ふたりのママが営むスナックで、訳ありげな客たちが今宵も扉を開ける。ときには、この世ならざるものも…。ちょっと不思議でしみじみ沁みる、大人のための物語。